



**Sun A. Kaken**

**第114期(2023年3月期)  
決算説明会**

**株式会社 サンエー化研**

**2023年6月6日**

# 目次

## 1. 第114期(2023年3月期)決算概要

- 連結貸借対照表(資産の部、負債・純資産の部)
- 連結損益計算書
- 営業利益の要因分解

## 2. 各セグメントの概況

- セグメント別業績内訳
- 事業の内容及び概況(軽包装材料、産業資材、機能性材料)

## 3. 第115期(2024年3月期)業績予想と今後の施策

- 翌期業績予想
- セグメント別業績予想、今後の施策(軽包装材料、産業資材、機能性材料)
- 設備投資及び研究開発費

## 4. 参考情報

- トピックス
- 基本情報

# 目次

## 1. 第114期(2023年3月期)決算概要

- 連結貸借対照表  
(資産の部、負債・純資産の部)
- 連結損益計算書
- 営業利益の要因分解

# 第114期決算概要: 連結貸借対照表(資産の部)

(単位: 百万円)

科 目	2021年3月期末 (第112期末)	2022年3月期末 (第113期末)	2023年3月期末 (第114期末)	対前期 増減額	対前期 増減率
流動資産	22,420	22,570	22,408	▲161	▲0.7%
現金預金	7,147	7,296	6,262	▲1,033	▲14.2%
売上債権	11,628	10,671	10,883	211	2.0%
棚卸資産	3,605	4,269	4,987	718	16.8%
その他	39	332	274	▲57	▲17.4%
固定資産	13,567	13,376	13,202	▲173	▲1.3%
有形固定資産	7,325	7,060	6,835	▲224	▲3.2%
無形固定資産	54	47	40	▲7	▲15.0%
投資その他の資産	6,188	6,268	6,327	58	0.9%
資産合計	35,988	35,946	35,611	▲335	▲0.9%

# 第114期決算概要: 連結貸借対照表(負債・純資産の部)

(単位: 百万円)

科 目	2021年3月期末 (第112期末)	2022年3月期末 (第113期末)	2023年3月期末 (第114期末)	対前期 増減額	対前期 増減率
流動負債	12,625	12,085	12,700	614	5.1%
仕入債務	6,888	7,019	6,920	▲98	▲1.4%
短期借入金	3,470	3,530	3,630	100	2.8%
その他	2,267	1,536	2,149	613	39.9%
固定負債	3,503	2,932	2,431	▲500	▲17.1%
長期借入金	1,393	1,364	883	▲480	▲35.2%
その他	2,110	1,567	1,548	▲19	▲1.2%
負債合計	16,129	15,017	15,132	114	0.8%
純資産	19,859	20,928	20,479	▲449	▲2.1%
負債及び純資産合計	35,988	35,946	35,611	▲335	▲0.9%

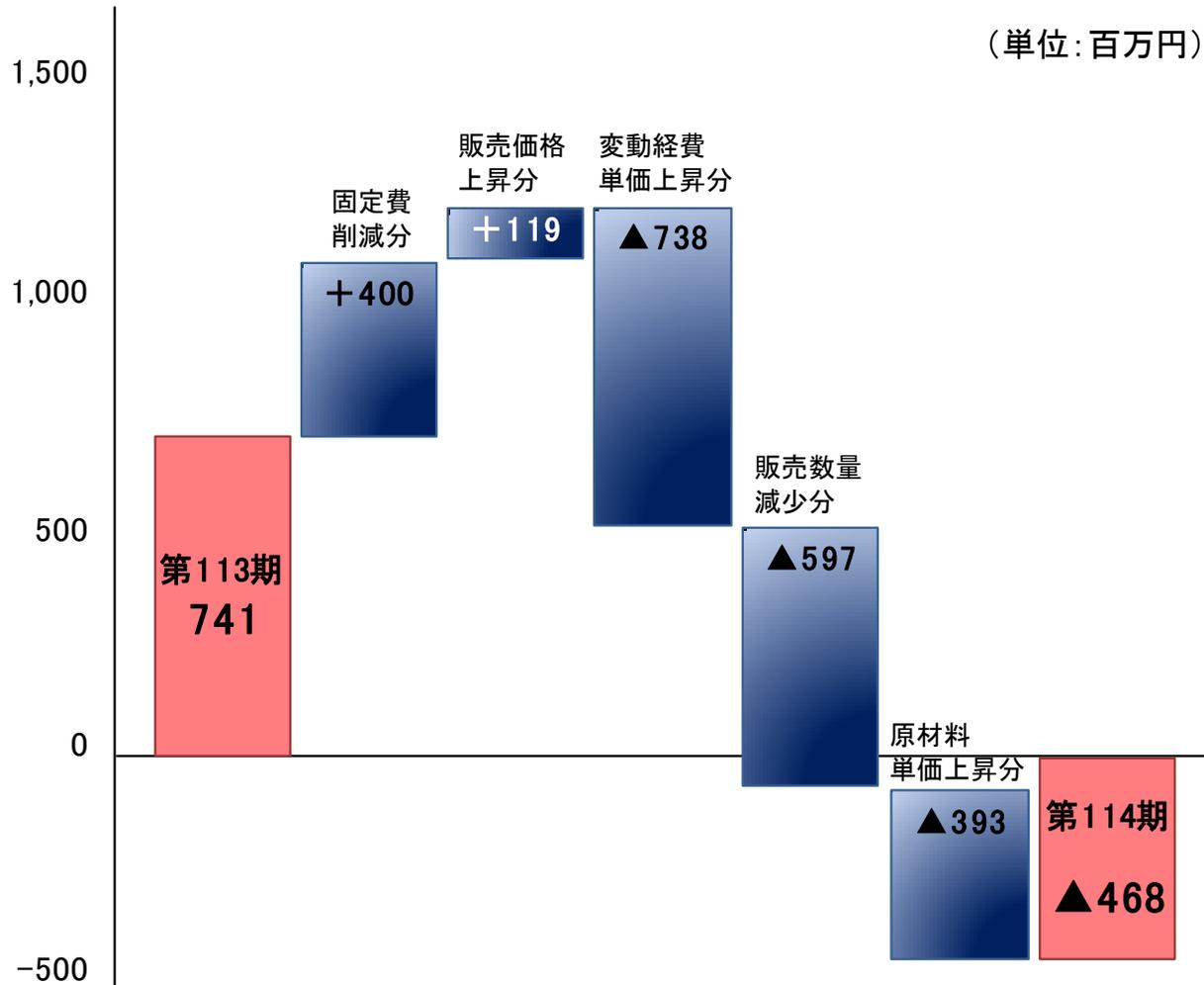
# 第114期決算概要: 連結損益計算書

(単位: 百万円)

科 目	2021年3月期 (第112期)	2022年3月期 (第113期)	2023年3月期 (第114期)	対前期 増減額	対前期 増減率
売上高	(29,986)	28,674	27,870	▲803	▲2.8%
売上原価	(26,275)	24,769	25,287	517	2.1%
売上総利益	3,711	3,904	2,582	▲1,321	▲33.9%
販売費及び一般管理費	3,097	3,162	3,051	▲111	▲3.5%
営業利益	613	741	▲468	▲1,210	▲163.1%
営業外収益	330	298	267	▲31	▲10.5%
営業外費用	37	66	35	▲31	▲46.4%
経常利益	906	973	▲236	▲1,210	▲124.3%
特別利益	469	615	7	▲607	▲98.7%
特別損失	64	12	68	56	455.5%
税金等調整前当期純利益	1,311	1,576	▲297	▲1,874	▲118.9%
税金費用他	210	61	▲99	▲160	▲262.6%
親会社株主に帰属する当期純利益	1,101	1,515	▲198	▲1,714	▲113.1%

※括弧内は「収益認識に関する会計基準」適用前の数値

# 第114期決算概要：営業利益の要因分解



販売面においては、販売価格の値上げその他で平均販売価格が上昇したことが1億19百万円の増益要因となりましたが、液晶パネルメーカーの生産調整の影響を受け、当社の光学用表面保護フィルムの受注が大幅に減少したことが5億97百万円の減益要因となりました。

費用面においては、資源エネルギー価格の高止まりにより、電力費高騰を主とする変動経費単価上昇による減益要因が7億38百万円、原材料単価上昇による減益要因が3億93百万円となりました。

一方、生産合理化の推進によって固定費を4億円削減しましたが、前述の諸要因により連結営業利益は12億10百万円の減益となり4億68百万円の営業損失となりました。

# 目次

---

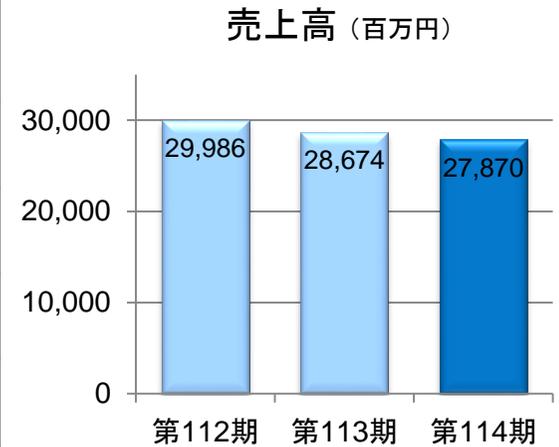
## 2. 各セグメントの概況

- セグメント別業績内訳
- 事業の内容及び概況  
(軽包装材料、産業資材、機能性材料)

# 各セグメントの概況: セグメント別業績内訳

(単位: 百万円)

科目/ セグメント	2021年3月期 (第112期)	2022年3月期 (第113期)	2023年3月期 (第114期)	対前期 増減額	対前期 増減率
売上高	(29,986)	28,674	27,870	▲803	▲2.8%
軽包装材料	(12,000)	11,285	12,049	763	6.8%
産業資材	(8,967)	9,464	9,904	440	4.6%
機能性材料	(8,581)	7,639	5,588	▲2,051	▲26.9%
その他	(437)	283	327	43	15.5%
営業利益	613	741	▲468	▲1,210	▲163.1%
軽包装材料	397	338	213	▲125	▲37.0%
産業資材	▲236	▲84	▲364	▲280	—
機能性材料	466	484	▲353	▲838	▲173.0%
その他	▲14	2	37	34	1,234.9%



※括弧内は「収益認識に関する会計基準」適用前の数値

# 各セグメントの概況：事業の内容及び概況（軽包装材料）

## 軽包装材料セグメント

食品、医薬品、医療器具、精密機器等の包材の製造・販売



### 主要顧客

- 食品製造業
- 医薬品・医療器具製造業
- 精密機器製造業
- その他製造業

### 生産拠点

静岡工場



奈良工場



東邦樹脂工業



# 各セグメントの概況：事業の内容及び概況（軽包装材料）

## 食品用包材

売上高  
5,892百万円



「レンジD○!」、「ポロソ」、清涼飲料用パウチなどが安定した売上を支える。

### 市場環境

- 同業400-500社程度
- 汎用品は競争厳しい
- 環境対応包材のニーズ高まる

### 収益性・成長性

- コロナ禍で「レンジD○!」の需要拡大
- 業務用包材の需要回復に期待

## 医薬品・医療用包材

売上高  
1,949百万円



徹底した品質管理で顧客の信頼は厚い。「テクニフィルム」、「Medi Green」に期待。

### 市場環境

- 品質要求厳しく新規参入困難
- 市場は拡大傾向

### 収益性・成長性

- CO2削減に寄与する医薬品包材は一定の需要あり
- 高齢化の進行で医療分野は成長期待

## 日用品等の包材

売上高  
4,208百万円



多様な製品展開で受注変動リスクに対応。独自製品の開発・拡販に注力。

### 市場環境

- 環境対応包材の引き合い増加
- 高機能・利便性のニーズ高い
- 一般包材は競争厳しい

### 収益性・成長性

- 詰替え用パウチは多様化で競争厳しく
- 耐内容物包材は潜在需要見込める
- 環境対応製品開発を進め新市場を開拓

# 各セグメントの概況：事業の内容及び概況（軽包装材料）

## 軽包装材料

- 売上高：12,049 百万円（前期比 6.8% 増）
- 営業利益：213 百万円（前期比 37.0% 減）



※第112期売上高は「収益認識に関する会計基準」適用前の数値

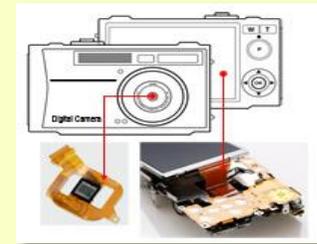


- 行動制限の緩和に伴う社会経済活動の正常化により娯楽施設や行楽地に人出が戻り、清涼飲料用パウチの需要が増加。電子レンジ対応食品包材「レンジD○!」の販売数量も前期並みを維持し、食品用包材は増収。
- 医薬品・医療用包材は、前期並みの受注数量を確保。
- 日用品等の包材については、半導体不足その他の影響により、需要は伸び悩むも、製造原価上昇分の販売価格への転嫁が徐々に進み、増収。
- 製造原価上昇分の価格転嫁の遅れにより、減益。

# 各セグメントの概況：事業の内容及び概況（産業資材）

## 産業資材セグメント

### 粘着テープ基材及び各種剥離紙の製造・販売



### 主要顧客

- テープ・ラベル製造業
- プラスチック製品製造業
- 電子部品製造業
- その他製造業

### 生産拠点

掛川工場WEST



袋井工場



東邦樹脂工業



シノムラ化学工業



# 各セグメントの概況：事業の内容及び概況（産業資材）

## 紙・布へのラミネート製品

売上高 4,366百万円



主に粘着テープ用基材をテープメーカーに販売。

### 市場規模（推定）

- 重包装袋：約900百万m<sup>2</sup>/年
- 紙テープ用：約420百万m<sup>2</sup>/年
- 布テープ用：約200百万m<sup>2</sup>/年

### 市場環境

- 紙テープの国内生産量は横ばい
- 海外品OPPテープとも一部競合

### 収益性・成長性

- 一般品は生産数量の確保が課題
- 一部テープメーカーの紙粘着テープ廃番により当社製品の受注機会拡大
- シノムラ化学工業子会社化により布テープ用基材のシェア拡大、競争優位に
- 樹脂代値上がりによる収益への影響大

## 剥離紙

売上高 5,538百万円



テープメーカーの他、電子・化学・自動車関連等、ユーザーは多岐にわたる。

### 市場規模（推定）

- 約2,700百万m<sup>2</sup>/年

### 市場環境

- 国内ユーザーの海外移転一服で国内需要は底打ち

### 収益性・成長性

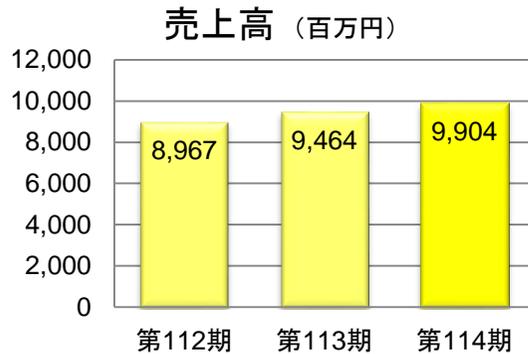
- 一般用途は競争厳しい
- 自動車関連部材用の拡販に期待
- メディカル用途の拡充を目指す
- FPC用工程紙は成長過程にあるも、IT業界の動向による受注変動大

## 各セグメントの概況：事業の内容及び概況（産業資材）

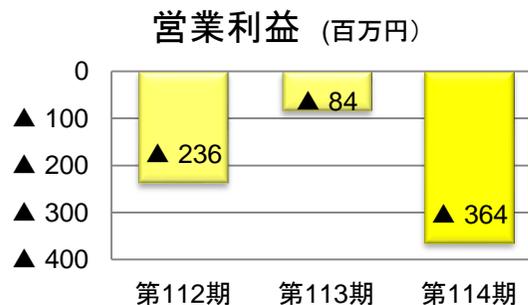
### 産業資材

■ 売上高： 9,904 百万円 （前期比 4.6 % 増）

■ 営業利益：▲364 百万円 （前期実績 ▲84百万円）



※第112期売上高は「収益認識に関する会計基準」適用前の数値



■ 紙・布へのラミネート製品については、物流の回復に伴う梱包用テープの需要増加と、一部テープメーカーが行った紙粘着テープ廃番により、当社の販売先テープメーカーが増産対応。その影響でテープ用基材が大幅増収。

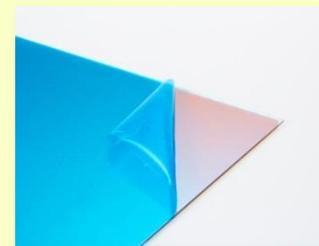
■ 剥離紙については、FPC（フレキシブルプリント基板）用工程紙の受注が若干上向くも、半導体不足の影響により自動車関連部材向けは低調。また、人材不足等の影響から建材用途の受注も伸び悩み、僅かに減収。

■ 原材料価格や電力燃料費の高騰による製造原価上昇分の販売価格への転嫁が追い付かず、営業損失拡大。

# 各セグメントの概況：事業の内容及び概況（機能性材料）

## 機能性材料セグメント

### 機能性プラスチックフィルム（各種表面保護フィルム等）の製造・販売



#### 主要顧客

- FPD関連メーカー
- 電気製品メーカー
- 住設機器・建材メーカー
- その他製造業

#### 生産拠点

掛川工場



袋井工場



奈良工場



# 各セグメントの概況：事業の内容及び概況（機能性材料）

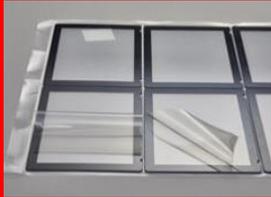
## オレフィン系粘着加工品

売上高 2,513百万円

サニテクト  
(粘着塗工タイプ)



PAC  
(2層押し出しタイプ)



最初に生産を開始したPO系の表面保護フィルムで、用途は多岐にわたる。

市場規模（推定）

粘着塗工タイプ

- 約300百万m<sup>2</sup>/年  
(光学用途)

2層押し出しタイプ

- 約700百万m<sup>2</sup>/年  
(光学用途)

収益性・成長性

粘着塗工タイプ

- 品種により他社製2層押し出しタイプとも競合
- 一般用途は国内市場縮小で需要が減少傾向
- レーザークット用など非光学用途の需要拡大に期待

2層押し出しタイプ

- 偏光板用途は一定の需要が見込まれるも、品質面の差別化が課題
- 環境配慮型製品として強粘着タイプに期待

## その他の粘着加工品

売上高 3,074百万円

SAT、  
サニテクトNS  
その他  
(PET基材タイプ他)



PETフィルムを基材とし、品質要求レベルの高い用途に使用される。

市場規模（推定）

精密塗工タイプ

- 約500百万m<sup>2</sup>/年  
(光学用途)

収益性・成長性

- テレビ向けは、世界的なインフレと中国の経済成長鈍化により需要の回復鈍い
- スマートフォン関連は5G対応やフォルダブルタイプの需要に期待

# 各セグメントの概況：事業の内容及び概況（機能性材料）

## 機能性材料

■ 売上高： 5,588 百万円 （前期比 26.9 % 減）  
 ■ 営業利益： ▲353 百万円 （前期比 173.0 % 減）

売上高 (百万円)



※第112期売上高は「収益認識に関する会計基準」適用前の数値

営業利益 (百万円)



- ウクライナ危機の長期化に伴う世界的インフレの影響により、テレビやスマートフォンの需要が低迷。これに伴いパネルメーカーが一斉に生産調整を行ったため、光学用表面保護フィルムの受注は大幅に減少。
- テレワークやオンライン授業の普及に伴うパソコンやタブレット端末の特需も当期には収束し、さらに受注減少。
- 原材料価格や電力燃料費の高騰による限界利益率の低下と受注数量の大幅減少により固定費を賄いきれず、営業損失を計上。

# 目次

## 3. 第115期(2024年3月期)業績予想と今後の施策

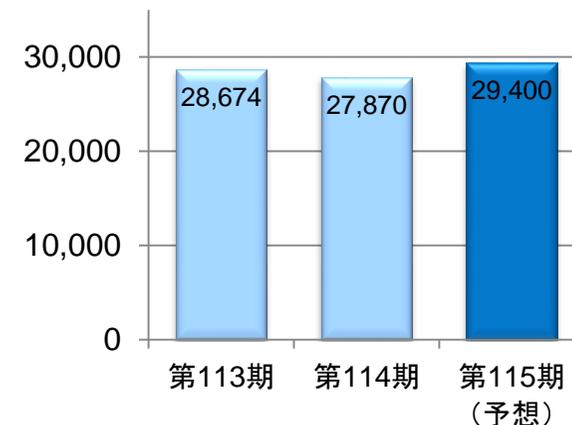
- 翌期業績予想
- セグメント別業績予想、今後の施策  
(軽包装材料、産業資材、機能性材料)
- 設備投資及び研究開発費

# 第115期業績予想と今後の施策：翌期業績予想

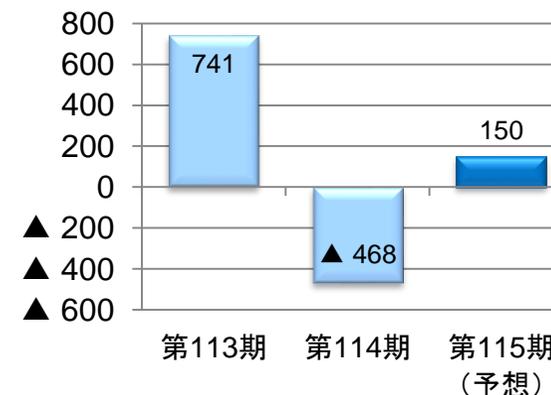
(単位：百万円)

科目／セグメント	2022年3月期 (第113期)	2023年3月期 (第114期)	2024年3月期 (第115期) (予想)	対前期 増減額	対前期 増減率
売上高	28,674	27,870	29,400	1,529	5.5%
軽包装材料	11,285	12,049	12,300	250	2.1%
産業資材	9,464	9,904	10,350	445	4.5%
機能性材料	7,639	5,588	6,450	861	15.4%
その他	283	327	300	▲27	▲8.4%
営業利益	741	▲468	150	618	—
経常利益	973	▲236	300	536	—
親会社株主に帰属 する当期純利益	1,515	▲198	210	408	—

売上高 (百万円)



営業利益 (百万円)



# 第115期業績予想と今後の施策：セグメント別業績予想（軽包装材料）

## 軽包装材料

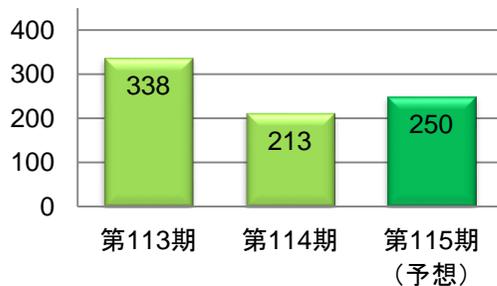
### 【第115期業績予想】

- 売上高： 12,300 百万円（当期比 2.1% 増）
- 営業利益： 250 百万円（当期比 17.3% 増）

売上高（百万円）



営業利益（百万円）

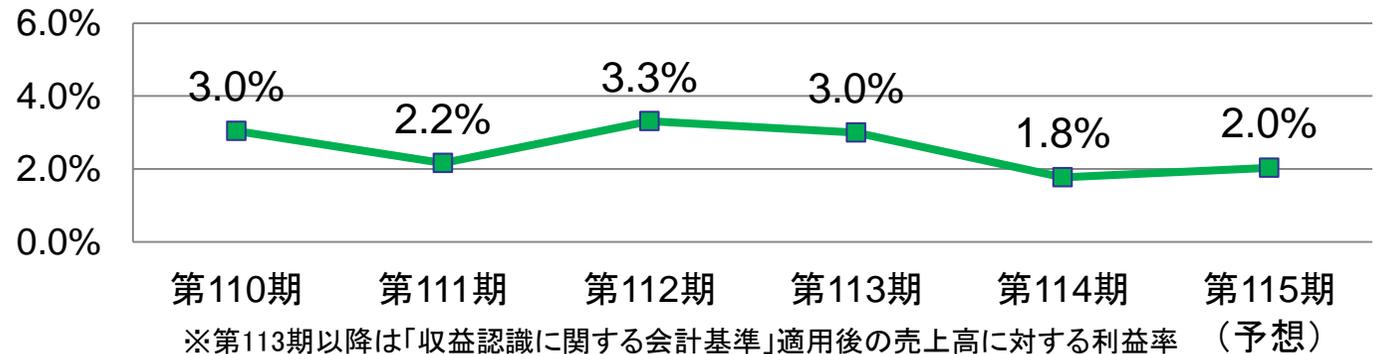


- 電子レンジ対応食品包材は、レトルトタイプからの切替需要が増加傾向にあり、「レンジDo!」は引き続き好調な受注が見込まれる。
- 使用済容器の減容化やプラスチック使用量削減の流れを受け、ボトルタイプの容器からパウチへの切替需要を取り込む。
- リサイクルしやすいモノマテリアルタイプのエア緩衝材を早期に商品化し、受注獲得を目指す。

## 第115期業績予想と今後の施策：今後の施策（軽包装材料）

### 軽包装材料

営業利益率の推移



- 今後も堅調な需要が見込まれる電子レンジ対応食品包材「レンジD○！」の市場開拓を継続し、需要の創出を図る。
- 飲料用や液体洗剤詰替え用のパウチ、耐内容物包材「プラピカ」の拡販を進める。
- バイオマス原材料を配合した環境配慮型医薬錠剤包装材「Medi Green®」の拡販に向け取り組む。
- 紙を主体とするバリア性の高い包材、バイオマスプラスチックや生分解性プラスチックを使用した包材等、環境配慮型製品の開発を推進し、拡販を図る。

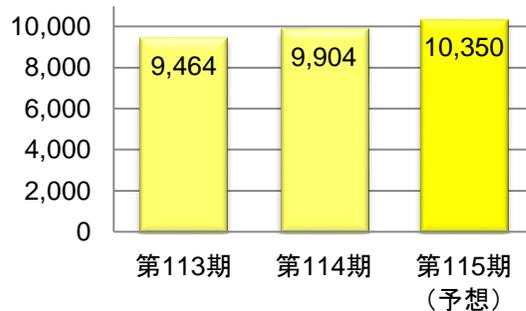
# 第115期業績予想と今後の施策：セグメント別業績予想（産業資材）

## 産業資材

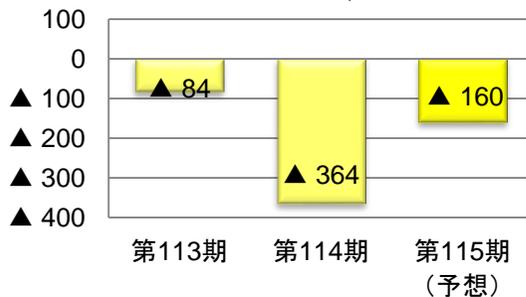
### 【第115期業績予想】

- 売上高：10,350 百万円（当期比 4.5% 増）
- 営業利益：▲160 百万円（当期実績 ▲364 百万円）

売上高（百万円）



営業利益（百万円）

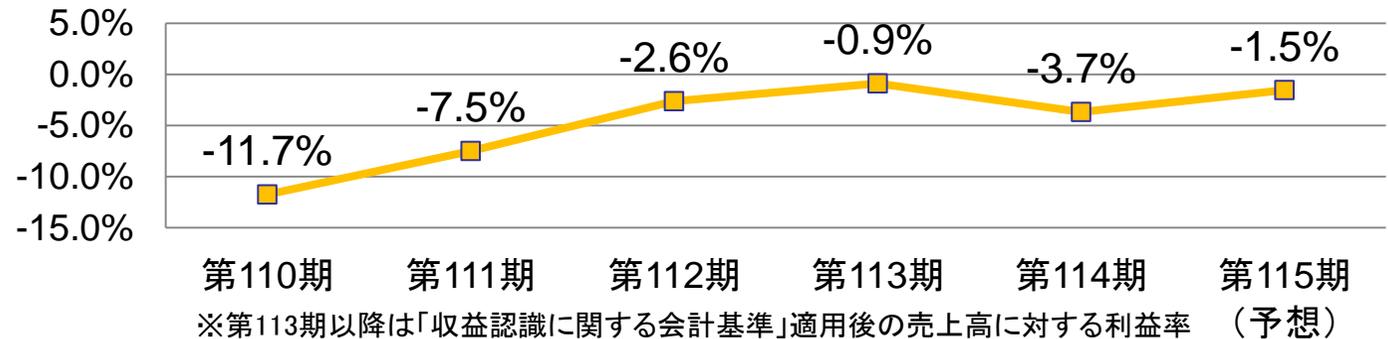


- 紙・布へのラミネート製品については、養生用テープ向け、梱包用テープ向けのテープ用基材の受注がともに当期並みで推移する見込み。
- 剥離紙については、ラベル用等一般用途向けは当期並みの受注が見込まれるが、自動車部品関連は回復の兆しを見せている。
- 原材料コストだけでなく、ユーティリティコスト上昇分についても価格転嫁を進め、一層の赤字縮小を見込む。

## 第115期業績予想と今後の施策：今後の施策（産業資材）

### 産業資材

### 営業利益率の推移



- シノムラ化学工業株式会社との間では、営業統合に続いて生産、管理などの機能統合を進め、販売・生産体制の最適化、コスト削減などでシナジー効果創出を図る。
- 今後も成長が見込まれるIT関連・自動車関連分野に向けた製品展開を推進する。
- リサイクルしやすい剥離紙「エコセパ」の拡販に努めるとともに、その他の環境配慮型製品や炭素繊維関連製品の開発に注力する。
- 業界動向を見ながら、事業規模拡大に向けてM&A案件についても機動的に取り組む。

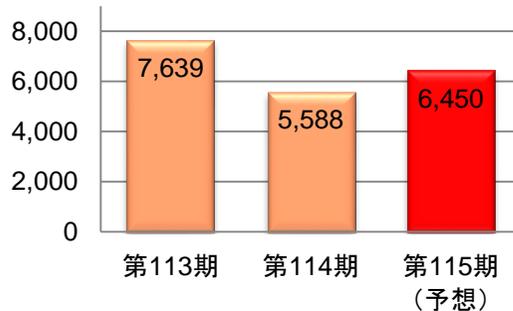
# 第115期業績予想と今後の施策：セグメント別業績予想（機能性材料）

## 機能性材料

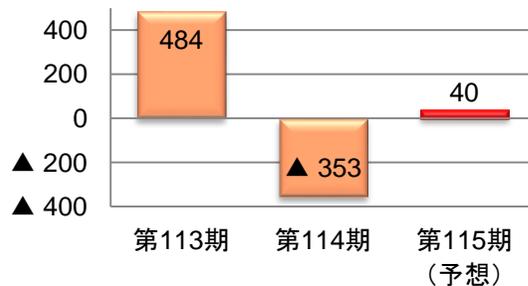
### 【第115期業績予想】

- 売上高： 6,450 百万円 （当期比 15.4 % 増）
- 営業利益： 40 百万円 （当期実績 ▲353百万円）

売上高（百万円）



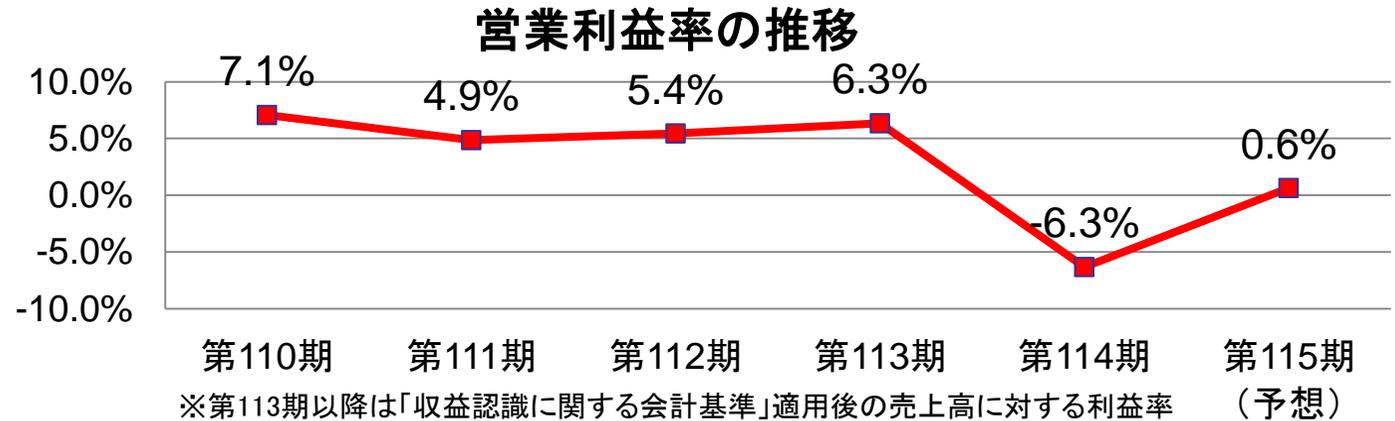
営業利益（百万円）



- 液晶パネルは、パネルメーカーの在庫圧縮が進んでおり、夏場以降に光学用表面保護フィルムの受注が回復することを見込む。
- スマートフォン市場は依然として動きが鈍いが、フォルダブルタイプの新機種が増えつつあり、市場の成長が見込まれる。
- 非光学用途では、ステンレスをはじめとした金属板のレーザーカット用や塩ビ代替タイプの需要増加に期待。

## 第115期業績予想と今後の施策：今後の施策（機能性材料）

### 機能性材料



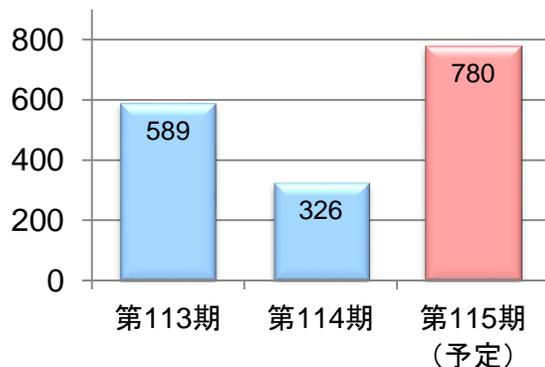
- 光学用途の表面保護フィルムについては、人員配置の見直し及びロス削減等を含む一層の生産合理化に注力するとともに、今後の需要回復を見据え、中小型パネル向けの拡販態勢を整える。
- 金属板用途及び特殊加工用途向け「サニテクト」の拡販など、非光学用途の市場開拓に努める。
- 環境配慮型製品としての特長を有する精密塗工タイプの表面保護フィルム「サニテクトNSタイプ」の拡販に努める。

# 第115期業績予想と今後の施策：設備投資及び研究開発費

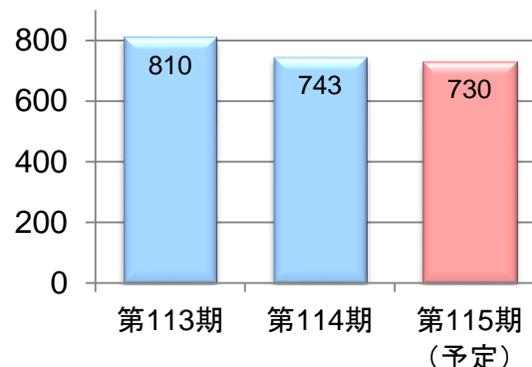
(単位：百万円)

科目	2022年3月期 (第113期)	2023年3月期 (第114期)	2024年3月期 (第115期) (予定)	備考
設備投資額	589	326	780	製袋機増設他
減価償却費	810	743	730	従来水準を維持
研究開発費	417	399	400	環境配慮型製品の開発に注力

設備投資額 (百万円)



減価償却費 (百万円)



研究開発費 (百万円)



# 目次

---

## 4. 参考情報

- トピックス
- 基本情報

## 参考情報: トピックス（販売体制の変更）

### ■ シノムラ化学工業（株）との営業部門統合

産業資材セグメントの収益性改善を図るため、本年4月より連結子会社:シノムラ化学工業株式会社の営業部門を当社東京営業第2部及び関西営業第2部に統合しました。

#### ■ 狙い

- 顧客の重複が複数存在するため、窓口を一本化して販売活動を効率化する
- グループの産業資材製品は当社がまとめて受注し、品質・納期・生産性・収益性の観点から最適な生産工場を選定することにより、収益性改善と顧客満足の向上を図る
- シノムラ化学工業の営業部門を当社の指揮下に置くことで販売戦略を共有し、一体感を醸成する

#### ■ 今後の施策

- 生産銘柄の集約
- 生産設備の統廃合
- 原材料の集中購買



## 参考情報: トピックス (新製品紹介)

### ■ バイオマスPE配合の医薬錠剤包装用PTPシート「Medi Green<sup>□</sup>」

バイオマスポリエチレンを配合したPVC(ポリ塩化ビニル)ベースの医薬錠剤包装用PTPシート「Medi Green<sup>□</sup>」を世界に先駆け製品化

- 従来品と比較して、CO2排出量は20%以上削減
- 配合するサトウキビ由来のバイオマスポリエチレンは、双日プラネット(株)が代理店を務める海外の大手化学メーカーから調達
- 「Medi Green」は、当社が製造し、双日プラネット(株)を通じて製薬会社に販売
- 一般タイプの医薬錠剤用につき、既存商品である高防湿タイプのPTPシート「テクニフィルム」と競合することなく、より多くの医薬錠剤への採用が見込まれる



# 参考情報: 基本情報

2023年3月31日現在

商 号  
 証 券 コ ー ド  
 設 立 者  
 代 表 者  
 事 業 所

株式会社 サンエー化研  
 4234 (東証 スタンダード)  
 1942年9月 (昭和17年9月)  
 代表取締役社長 山本 明広 (4月1日より 櫻田 武志)  
 本 社 : 東京都中央区日本橋本町1-7-4  
 営 業 拠 点 : 東京、大阪、名古屋  
 【海外】台湾、中国上海 (連結子会社 灿櫻(上海)商貿)  
 生 産 拠 点 : 静岡、袋井 (2カ所 内1カ所は連結子会社 シノムラ化学  
 工業(株) 本社工場)、掛川(2カ所)、天理、野木 (連結子  
 会社 東邦樹脂工業(株) 本社工場)

資 本 金  
 事 業 内 容  
 連 結 従 業 員 数  
 決 算 期

研究開発拠点 : 掛川  
 21億76百万円  
 高付加価値プラスチックフィルム・包材の製造・販売  
 688名  
 3月31日

業績予想は、本資料の発表日現在(2023年6月6日)において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

お問い合わせ先

---

株式会社 **サンエー化研**  
経営企画室

Tel:03-6661-7904 Fax:03-6661-7908

E-mail:keiki@sun-a-kaken.co.jp